

子どもの姿	・前回の水に入れるとどうなる？に興味を示し、「なんでだろう？」と疑問に思ったり不思議を感じる姿、試行錯誤する姿が少しづつ見られるようになる。 ・雨上がりの遊具や手すりについた雨の雫に気づき、見たり触れたりしている。
「問い」を考える	・水（雫）を「ポトン」と落としたらどうなる？ ・水の変化や不思議に気づく、感じる、試す ・アクリル板とポーガスとペーパーでの違いに気づく ・水の変化に気づいてどうなったかな？どうしてかな？
活動デザインする	・アクリル板に指先につけた水を垂らす。雫を見る。つながる、大きくなる、揺れる、流れるなど色々な変化を楽しむ。気づく。 ・雫の不思議、アクリル板の上での雫の様子を十分に観察出来たらポーガスペーパーに替える。最初はアクリル板同様に雫を落とす事から始めてアクリル板、ポーガスペーパーでの違いに気づく。線を描くなどしながら好きな絵を描いていく。 ・絵が完成したら貼りだす。その後、時間を置いてから絵を見て絵の変化に気づく。
環境をデザインする	・2 歳児保育室で行う。活動をしない子ども達は園庭で過ごすなど集中できる環境を作る。 ・アクリル板の時は雫の様子がよく見えるように椅子は出さず、床に座って行う（ライトテーブルを明るくすると真上からは雫が見えづらい。横から雫の形なども見られるようにする） ・ポーガスペーパーを使用する時は活動によってライトテーブルの明るさを調節し、変化など見えやすいようにする。 ※絵を描く時はポーガスペーパーとアクリル板を入れ替える
小グループを構成する	・2 歳児： 2 人または 1 人ずつ行う。（活動の様子などにより変更あり）
準備するもの	・水（調理室から小皿を借りる2枚） ・タオル（テーブルに敷く、拭く） ・ライトテーブル 2 つ ・アクリル板 2 枚 ・ポーガスペーパー（荷物などの緩衝材に入っている紙）※ライトテーブルの大きさにする。 ・テーブル ・椅子（絵を描くときに使用）

2歳児探究活動

水 ～水の変化、水で描いてみよう～



グループ①M、K

- 指先につけた水をアクリル板に落とす。
- 膨らんだ水滴を見て驚はにこっと嬉しそうな表情だった。
- 自分でどんどん水滴を落としたり水滴の変化を楽しんでいたようだった。
- ボーガスペーパーに水で描いてみたが、ライトテーブルの光など調節しても描いた跡が見えづらい様子があった。
- 赤、青、黄の色のついた水を用意し、色付きで描いてみる。



M

- 保育者が水滴のついたアクリル板を傾けると流れていく様子をじっと見ている。自分でもアクリル板を傾けて観察していた。
- ボーガスペーパーに水で描いた後、色付きでも描く。夢中になり点や線を描いていた。そのうち、色の水を混ぜ合わせて色が変化することに興味を示し出す。
- 描いた絵を窓に貼ると貼った状態でも描き続けていた。



K

楽しみながら参加し、
水滴の変化にとっても
興味を示していた。



指先に水をつけてちょんちょん



あれ？くっついた？



指で伸ばすと「リスみたい！」

ボークスペーパーにもちょんちょん



色付きでもちょんちょん



赤と青が混ざる様子を近くで観察



グループ② S、Y

- 前のグループで茶色のボークスペーパーに水や色付きの水で描いても見えづらいことから白い和紙も用意する。
- Yは前回同様、水滴にとっても興味を示し、じっくりと観察しながら活動に取り組んでいた。特に水滴がながれていく様子に夢中で繰り返していた。また、水を垂らして紙ににじんで広がっていく様子に気付き、顔を近づけて見ていた。
- Sはいつもとちがう雰囲気や慣れない保育室だったこともあり緊張した様子があった。保育者がそばにつき、一緒に活動する事で興味を持ち楽しく活動出来ていた。



Y

水滴が流れ落ちていく様子を楽しそうに見ている。アクリル板から下に落ちると「おっこちた！」と笑顔が見られた。



色つきも楽しい♪にじんで形が変わっていく様子を見ながら「カエル」「鳥になった～」♪



水を垂らすとじわーっと広がっていく（にじんでいく）様子に気がついた。。
「ん？なんだ？」と顔を近づけてじっくり観察。
何度も水滴を落としては様子をじっくり見ていた。



S

水で描いたヘビがなくなっている！？
あれ？どこに行ったの！

どこ行ったかな～？
まわりをキョロキョロ見てヘビ
を探してました。

- 最初は緊張していた様子だったが保育者と一緒に活動しているうちに楽しくなっていた。
- ボーガスペーパーに水で描いたヘビが乾いて消えことを保育者が知らせると「？？？」と不思議そうに見てどこにいったか周りを見て探していた。
- 乾くまでに描いたことを忘れてしまう子もいるだろうと感じた。





YS

- 水に触れるのを嫌がり、周りの他の玩具に気持ちが行ってしまう。
- 保育者が水滴を垂らしたりアクリル板を傾けて流れる様子を見ると少しだけ興味を示すが、離れた所から見ている。
- 保育者が色のついた水を垂らすとにじむ様子を見たり、ポン、ポンと色を付けていくリズムに合わせて声を出して楽しんでいた。

B

- 水滴の活動はあまり興味を示さなかったが、和紙に描くことを楽しんでいた。にじむ、色が混ざるなどには気づく様子が見られなかった。

何色にしようかな～？
色を選んだり指で描くことを楽しんでいる様子だった。



SY

水滴を落とすとニッコリ。
興味を示す。



赤を指につけて「あか
～しょうぼしゃ～」
などとおしゃべりしな
がら楽しく描いていた。



アクリル板を傾けると
水の流れていく様子を
じーっと目で追う。と
ても真剣な表情だった。

振り返り

- 2歳児保育室でなく幼児室で行った。K、M、Yは周りの声がなく集中出来ている様子だったが、Sは慣れない場所・雰囲気緊張する様子が見られ、YSやSYは周りの玩具などに目が行きあまり集中できていなかった。普段の保育に近い環境で遊びの延長のように活動できるのが望ましいと感じた。
- アクリル板と水滴での活動は変化がわかりやすく夢中な様子がよく見られたが、描いたものが見えづらい様子もあったので和紙や色のついた水など素材を増やしていった。素材を増やしたことで子ども達が興味を持ったり楽しく活動出来た。
- 水に流れる様子、紙ににじむ様子など子ども達の表情を見ると驚きや不思議、「あれ?」「なんで?」と感じている様子が伺えた。やはり言葉は少ないが、活動を重ねるごとに不思議を感じたり気づきが見られるようになっていっていると感じる。